

令和6年度 第2回豊明市文化財保護委員会会議録

日 時：令和7年2月28日（金）

場 所：豊明市役所新館3階 教育委員会室

出席者：佐野委員、近藤委員、相場委員、鈴木委員、岡村委員、永井委員、鬼頭委員、岩本委員、

事務局：相羽生涯学習課長、青木生涯学習課長補佐、岸田専門員

傍聴人：1名

1 あいさつ

委員長：昨年度から女子も棒の手に参加するようになった。各地の神事でも女性の参加が増えてきているように思える。

2 議題（1）令和6年度 事業報告について

（事務局説明）

○歴史民俗資料室について

- ・2月末の来室者数は4,054名である。昨年に比べ約700名増加した。その要因としては歴史民俗資料室の認知度が高まったことや企画展以外に夏に特別展を開催したことが影響していると思われる。

○ナガバノイシモチソウ・大狭間湿地の管理状況について

- ・ナガバノイシモチソウ一般公開は、5日間で586名の参加があり、昨年に比べ、100名程度減少した。理由としては、本年度愛知県主催の「知の探究講座」の参加がなかったためと思われる。大狭間湿地一般公開については、5日間で487名の参加があった。昨年度とほぼ同数である。

○文化財保護委員会視察研修について

- ・北名古屋市昭和日常博物館と回想法センター、醫王山 高田寺などを見学し、文化財の保護・活用について学んだ。

○文化財講座について

- ・8月の特別展に合わせて、集中し5回の文化財講座を実施した。
特別展「豊明の伝説―万物に宿る精霊・妖怪―」（令和6年8月10日から10月19日に開催）では豊明の伝説や器物の妖怪を紹介し、寄贈された民具の有効活用を行った。見学者数は1,146名であった。
企画展「わが家にテレビがやってきた！―昭和30年代・40年代のくらし―」（令和6年11月1日から令和7年1月25日開催）では、昭和30～40年代の再現展示を行い、今後の回想法にも役立つ展示内容とした。見学者数は1,332名であった。

○寄贈品について

- ・17件の寄贈を受けた。企画展の展示に向けて募集し昭和30～40年代のものを中心に受領した。
文具、鉛筆削り、カメラ、ラジオや昭和39年の東京オリンピック関連の寄贈品も多かった。
寄贈品も充実してきており、今後も広報等で募集をかけていく予定である。

（委員）

歴史民俗資料室の来館者の年齢構成を教えてください。

（事務局）

概ね60代から70代、80代の見学者が多く、名古屋から来られる方も多い。企画展の内容も好評であった。またクイズ形式でまた缶バッジがもらえる催しを行っており小学生の数も多い。

（委員） 小学生は缶バッジ目当てに訪れるケースもみられるので、豊明のことについて理解してもらえるとよい。

議題（２）令和７年度事業計画について

（事務局説明）

- ・文化財保護委員会は年２回（５月と２月）の開催を考えている。必要に応じて臨時会を実施する予定である。
- ・文化財保護委員会視察研修については、年１回日帰り研修を考えている。
- ・ナガバノイシモチソウ・大狭間湿地の一般公開については、例年通り前半の２日間（８月２日・３日）のみナガバノイシモチソウ・大狭間湿地間のマイクロバス巡回を考えている。
- ・大狭間湿地の保全活用計画に（案）について説明。豊明二村山自然観察会と委託契約を結び、月１回通路の除草や清掃を行っている。また、一般公開前には、サイクリングロード周囲の除草や整備、湿地周辺の樹木間伐なども適宜行っている。本年度同様、冬季に表土除去や天地返しをはじめ、除草作業を実施する予定である。なお、湿地全域の除草作業については１２月にシルバー人材センターが行っている。
- ・文化財市指定案件については、事務局から諮問し随時検討・審議していきたいと考えている。
- ・歴史民俗資料室収蔵庫の整備と民具台帳の整理については、現在、台帳の加除を行っている。歴史民俗資料調査研究会の協力を得て、台帳の整理を進めて行きたいと考えている。
- ・埋蔵文化財の保護調査については、包蔵地や隣接地での開発計画に伴う試掘調査の立ち合いを文化財保護委員会の協力で進めていきたい。
- ・企画展は歴史民俗資料調査研究会に委託しており、来年度のテーマは「豊明の自然」である。会員への指導・助言をお願いしたい。

（委員）

大狭間湿地は豊明二村山自然観察会のメンバーが毎月第２土曜日に除草や整備等の保護活動を行っている。自然観察会のメンバーの高齢化が進み、集まれるメンバーだけで保護活動に参加していると聞いている。かなり過酷な作業のため市が協力しないと今後の保護活動が難しくなると思われる。若者の参加にどう取り組むかが課題である。

（委員）

豊明市は環境省「自然共生サイト」に登録しているか。登録すれば、保護活動のモチベーションが上がるのではないかと。豊明市は大狭間湿地やイシモチソウなどいい自然を有しており登録すればいいのでは。植生調査もやってもらえるようだ。さまざまな環境保護への取組を国などは行っており、情報を収集して、様々な方法でアプローチしていけばいいのではないかと。

（事務局）

この近くでは日進市の五色園が「自然共生サイト」に登録しているようだ。一度、検討してみたい。

○その他

■令和７年度広報特別号掲載記事について

（事務局説明）

毎年１１月の文化財保護週間にあわせて特集記事を組んでいる。令和７年度は、鬼頭委員が大狭間湿地について執筆を予定しており一般公開に合わせて例年より掲載時期を早めたい。なお、令和８年度は岩本委員に執筆の依頼をしたい。

■令和７年の企画展について

（岩本委員：歴史民俗資料調査研究会副会長を兼務）

展示概要について説明。テーマは「豊明の自然」である。大狭間湿地、境川堤防域、イシモチソウを軸に今どのように保全され、将来どのような保全ができるかを考えていける内容を検討している。過去に作成した植生図との比較を通して、市街化の進行、自然の移り変わりを視覚的に示したいと考えている。なお、企画

展の開催は例年11月からであったが、イシモチソウ、大狭間湿地の一般公開に合わせて8月くらいを考えている。

■令和8年度～10年度の企画展について

(事務局より提案説明)

企画展は例年11月から翌年1月にかけて3か月程度を予定している。令和8年度のテーマは、「豊明の街道―近世東海道―」とする。その概要は、市内の街道沿いには史跡地（桶狭間古戦場伝説地・戦人塚・阿野一里塚）をはじめ、歴史・文化的な拠点多く点在しているが、近年の開発に伴いその景観は変わりつつある。街道沿いでの新たな拠点として文化財指定を行うとともに、歴史的な場所をいくつか紹介するものである。

令和9年度のテーマは、「沓掛城と周辺3ヶ寺（慈光寺・正福寺・聖応寺）を中心に」とする。その概要は、沓掛城周辺には桶狭間の戦いに関連した神社・仏閣が点在し、多くの歴史資料が伝存することからこれらの寺伝や宝物資料を紹介するものである。また、調査の段階で発見した歴史資料について新たな記録を後世に残すことを考えている。

令和10年度のテーマは、「戦争体験～戦中・戦後の暮らし～」とする。その概要については、戦後80年を迎え、年々戦争の体験を語れる人の数も少なくなっていることから戦中ならびに戦後の困窮した頃の生活に関する資料を収集展示するものである。戦争体験した方に講座あるいはワークショップなどで、語り部として話をしていただく機会を設けることを考えている。実際に沓掛小学校では戦争体験者の語りを聞く会を行っており、戦争体験者の話を伺う貴重な機会を逃したくないと考えている。

(委員)

- ・令和10年度の戦争体験の件について、戦争あたりの様子を知る資料自体が少なく、早めに資料収集に当たるとよい。また寄贈していただいた戦争当時の遺品には、個人名がのっており、資料の扱い方には注意が必要である。
- ・戦争に関して、当時の資料を含め、体験者から生の声を聴けることは貴重なことだと思う。語り部の話を聞いて、どのように受け取ったか、受け手側の資料も収集した方がよい。
- ・戦争体験者を探すにあたり遺族会を手掛かりにするとよいのではないか。体験者は100歳近くになっており、戦争体験について余り語りたくない体験者もいると思われる。話せるところだけでも話してもらえるとよい。
- ・豊明市内に防空壕が一之御前にあったということを聞いたことがあるが、どこにあったのか現在は分からない状況である。
- ・戦争前後の市民の生活について、ひどくなったのは戦後で、戦争中は戦う意欲の方が強く生活がひどいとはあまり感じなかったようだ。ただ、終戦3年前あたりから物資が不足してきたと聞いている。
- ・戦争体験について、本を執筆している人もいるので参考にするとよい。

■視察研修について

(事務局説明)

熊坂長範の伝説に関連した島田地蔵寺と棧敷1号窯から出土した「淳和院へら書き」を所蔵する愛知県陶磁美術館に秋口に視察見学に行くことにしたい。

次回の文化財保護委員会の日程については、5月23日（金）午後2時に開催